

令和4年度 第1回宇治市小中一貫教育推進協議会会議録

会議名	令和4年度 第1回宇治市小中一貫教育推進協議会
日時	令和4年7月11日(月) 18時00分～20時00分
場所	宇治市役所 8階 大会議室
出席者	(委員) 榊原会長 丹羽委員 松丸委員 井戸本委員 内田委員 島田委員 岸委員 清原委員 * 薮副会長は欠席 (事務局) 岸本教育長 上道教育副部長 林口教育支援センター長 吉田教育総務課長 金久教育支援課長 吉川学校改革推進課長 岡野学校教育課長 土井学校教育課副課長 天花寺学校教育課総括指導主事 田中学校教育課学校教育指導主事
配付資料	令和4年度第1回宇治市小中一貫教育推進協議会資料 令和4年度「中学校ブロックジョイントプラン」構想図

1 開会

- ・岸本教育長 開会挨拶
- ・各委員自己紹介
- ・事務局自己紹介
- ・設置要項に基づき、会長に榊原委員、副会長に薮委員を選出
- ・榊原会長挨拶

2 報告及び協議事項

(1) 報告1 令和3年度宇治市小中一貫教育推進協議会の活動概要

資料7頁に沿って事務局より説明

報告1についての質問・意見等と応答

(会長)

では、新しい委員の方もおられるので、わからないことや、もう少し詳しく教えてほしいことなど、ご意見・ご質問を頂戴いたします。いかがでしょうか。

事務局から、昨年度、テーマを「地域とのつながり」に絞り、学校もある程度絞って進めていただいたという経緯がありましたが、その意義について、補足してもらっていいですか。

(事務局)

はい、今年度より宇治市の学校はCS、コミュニティ・スクールをスタートするということもあり、昨年度は、地域の方が参加していただいている取組に絞って進めさせていただきました。

今年度につきましても、主に、そういった取組を見ていただけるように考えております。

(会長)

昨年からご参加いただいている委員さんの方から、付け足しやご説明など、ご経験をお話しくとありがたいのですが。

(委員)

榊島中ブロックを視察させていただいております。着付けと生け花という催しをしておられました。事前の資料で、SDGsの子ども服の回収もされているということから、具体的にどのようにされているかということを見させていただき、色々聞きたかったこともあり、参加させていただきました。

内容につきましては、着付けと生け花の方は、本当にスムーズに、地元の方が手順をしっかり組ま

れて、生徒に着物を着させたり、生け花をさせたりしていました。非常に、協力的な方が中心となっておられ、ああいう方がいらっしゃって、これからコミュニティ・スクールが始まるのだと思いました。私たちも、もっと違う面でも力になれたらと思いました。

もう一つ、子ども服の回収ですが、帰ってから、地元の笠取小でも、子ども服の回収を実施していただきました。結構集まりました。ご高齢の方が多くの中で、子ども服があるのかという話もありましたが、結構お持ちでした。このように視察したことから、資料をいただいて、勉強し、実践させていただきました。

(会長)

ありがとうございます。私からも付け足しですが、お邪魔して印象深かったのは、7・8年ぐらい前に、学校も落ち着かない時期があったと校長先生からお伺いました。そのような学校の状況で何ができるかとお考えになり、地元を生け花のできる先生がいらっしゃり、着付けもしてもらえるとという感じで色々試行錯誤なさったみたいですよ。

最終的には、学区を中心に地域の方に来てもらい、普段家ではしない生け花の機会を設け、子どもたちに1人1鉢用意してもらい、お花代だけの負担で、あとは全部、お茶やお花の先生にご用意いただき、説明用にパワーポイントのスライドも作成してくださって、生け花をされていました。

生け花の前には、体操着の上からですけど、男女別に浴衣を着せてもらい、文字通り触れ合いというか、全部地域の方が、生徒さんの肩を持ったり帯を縛ったりして着せ、中学生もすごく嬉しそうでした。その姿で、お花を活けるということでした。

他のお話では、そのお花をお家にもって帰るので、家庭でも、ああだった、こうだったと話をする。地域でも、そういう方に会うと挨拶できるようになったということでした。

このような取組で、学校も次第に落ち着いたというイメージの中学校だなと感じた次第です。

では、広野中ブロックにも行っていただいているので付け足しがあればお願いいたします。

(委員)

中学生と小学生の合同の児童会・生徒会の活動でした。それをリモートでされていたのですが、やはり、最近の子どもたちです。私なんかよりも、Zoomとかにもすぐに慣れ、小学生と中学生がうまくやり取りしていました。さすが今どきの子だなと感じました。

このように、小学校4年生・5年生・6年生がもっと中学校の様子などを見られると、中学に入学するときの入学前の不安とかも少なくなるでしょうし、ちょっと楽しみも増すと思います。そういう意味では、リモートというのも、コロナもまだ落ち着いていないですが、すごく重要で効果的ではないかと思いました。

(会長)

はい、ありがとうございます。委員も行ってくださっているのですが、お願いします。

(委員)

失礼します。私も推進委員である前に、西小倉中学校の小中一貫ラーニングコーディネーターの視点で、コロナ禍でどういった取組をされているのかというところで見させてもらいました。広野中ブロックの取組としては、コロナ禍でなかなか取組ができないという状況で、最初はできない理由ばかり並べて進められていなかったということでしたが、このタイミングで視察がありましたので、必ずしも足を運んで、同じ場を共有してやらなければいけないことだけではなく、リモートという手段を使って、一定同じような効果が得られる取組をされたことに感心しました。同時に、自身の取組をちょっと反省させられたというのが、昨年度の総括でした。今年度に向けて、反省を生かして、練るところから始めていきたいと考える、そんな機会となりました。

(会長)

はい、ありがとうございます。この学校訪問は、われわれだけがお邪魔するだけではなくて、事務局のセッティングがあって行けています。だから、事務局としてもご覧になっておられます。どうでしょうか。昨年、学校に行ってください方から、こんな感じだったよと出してもらおうと、新しい方にイメージが広がるかと思うのですが、補足ありませんか。

(事務局)

昨年度、広野中学校、榎島中学校に行きました。今、ご意見があったように、広野中学校の視察で

は、必ずしも会わなくても、小中につながることができるということがわかりました。また、小中がつながるために教員が、何をしよう、何ができるかと一所懸命考えてやっていたのですが、小学生の時にずっと関わってくださっていた地域の方が、子どもが中学生になっても関わってくださっていて、教員が知らない小学生の時を知ってくださっている。そういった意味で小中をつないでくださっているというのを、榎島中学校の方では見せていただいて、あらためて、地域の方もこの小中一貫教育を支えてくださっている、大事な部分を担ってくださっているのだなというふうに思ったところで

(会長)

ありがとうございます。

(2) 報告2 令和3年度小中一貫教育の取組到達状況報告

資料8頁に沿って事務局より説明

報告2についての質問・意見等と応答

(会長)

はい、ありがとうございます。昨年度、こういうところがあったのではないかという評価、自己評価ということになりますが、いかがでしょうか。確認したいこと、よくわからないところ、何なりとお寄せください。

(委員)

少し教えていただきたいのですが。「宇治学」という学習を、小学3年から中学3年生で行っているということなのですが、私もあまり詳しくは見たことはないのですが、3年生はお茶の授業とか、それから…、というような形で進んでいかれると思うのですが、最終、中学3年生くらいになると、どういうふうな「宇治学」の勉強をされているのかと思いました。大体で良いので、少し教えてください。

(事務局)

「宇治学」では、中学3年生につきましては、小学3年生から取り組んでまいりました「自分で課題を発見して、それを調べて、整理して、まとめて、発表する」という取組で身に着けた力を、最終、これから自分たちは何ができるかということ、ゆっくり課題を見つけて取り組んでいくという、最終のまとめという形での学習をしております。

(委員)

ありがとうございました。

(会長)

その他いかがでしょうか。委員、何かこういうことを、というのはございませんか。

(委員)

昨年度の取組で、広野中ブロックの「HOT-MEETING」、3校合同の児童生徒会、これは小中で3校の取組ということなのですか。それと榎島中ブロックの「和文化体験」というのも、これは中学校だけではなく、小学校から中学校までの取組ということなのでしょうか。

(事務局)

広野中ブロックにつきましては、児童会・生徒会の交流ということになりますので、広野中学校、大久保小学校、大開小学校の3校で行っております。

榎島中ブロックの取組は、榎島中学校の活動となっております。

(委員)

ありがとうございます。では、榎島中学校の活動というのは地域との交流ということが主であったということですね。ありがとうございました。

(会長)

ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。

委員、たびたび恐縮ですがけれども、ラーニングコーディネーターのお立場から見て、この総括に対するご意見、もし、ありましたら、あるいは確認がありましたらお聞かせください。

(委員)

私自身もこの総括を提出させていただいているのですが、全ブロックあわせて総括する形で、大して提出できていない中で、うまくまとめていただいているなと思い、ありがたく思っている立場なので、何か付け加えるというよりは、これでいいかなというところです。

(会長)

ほどよいくらいで付け足すことも、削ることもなく、いい感じではないかなというのが、お立場的な評価ですね。昨年度はご指摘があったのですけれども、学校の管理職のお立場からいうと、どうですか。これについて何かご感想はございますか。

(委員)

私自身は広野中ブロックに長くいたことがありますので、この「HOT-MEETING」については、ずっとしておりまして、私が校長で在職していたときは、コロナで全部、止まっているときだったので、できていなかったのですが。令和2年度はまったくできずじまいでした。令和3年度、昨年度になって、少し落ち着いたところで工夫をしながら、小中一貫教育を進めておられる事については、大変意義があるなと思っています。

私がおります宇治中ブロックでも、昨年度はZoomを使いながら、まずは教員の研修を行いました。感染状況が少し治まった2学期・10月については、参加者を絞りながら実際に授業を公開していった、という経緯があります。

3学期に行いました教員が一同に会しての研修については、またZoomになってしまったというところがありますが、このようにオンラインを使いながら、やはり、離れた小学校と中学校、複数の学校が一緒に進めているということは、宇治市にとって非常に値打ちのあるところなのかな、思っているところです。以上です。

(会長)

ありがとうございます。何かご質問等ございますか。

(委員)

質問ではないのですが、本当に10ブロックのことがうまくまとめていただいているなと思っています。

昨年は、一昨年コロナ禍の中でのノウハウがあったり、緊急事態・蔓延防止等重点措置が出ているときは、なかなか集まることはできなかったのですけれど、どのブロックも例年よりも回数こそ少なかったと思うのですが、工夫して集まったり、Zoomで会議をされたりと、取組を進めることができました。

本校でもそうです。一同には会せないのも、各教室の中で、工夫して相談し、その上で本年度も、次の「ジョイントプラン」がつけられたのかなと思います。そういう意味では、昨年度、コロナ禍の中でも、積極的にラーニングコーディネーターを中心に、各方面、進められたのではないかなと感じてはおります。

(会長)

ありがとうございます。今、おっしゃってくださったように、コロナ2年目というとな変な言い方ですけど、1年目の経験をもとに、こうすればできるのではないかな、これならやれるのではないかな、ということが市の教育財産となって、僅かではありますが前進できたということでしょうか。

このコロナ禍は、今も続いてはいるわけですから、その中で、どういったことが小中一貫教育でできるかと、知恵を出し合って、慎重に、少しずつ試みて、できるものを見つけるとか、あるいはICTのように、コロナを契機に新しい活動もでき、新しい手応えも得られたようにも思います。

それぞれの学校の中でもきっとそうでしょう。余談ですが、大学でもコロナをきっかけに一気にICTとかが進んで、コロナがきっかけというか、残念なことではあったのですが、全体としては、情報の伝達とか、記録の保持・保管とか、各小・中学校でも進んでいる面があるのではないかなということも思います。

ありがとうございました。

では、次に参ります。レジュメの3番目ですね。では、今年度どうするのだろうか、ということについてご意見を聞きたいと思います。ですが、実は、もう7月で、2022年度は、学校は既に4月か

ら始まっているので、その目当てや現在の進捗状況について、委員の皆様にご質問や、年度途中ですが、これを加えてほしいなどのご意見をおっしゃっていただいたりして、進めて参りたいと思います。では、3番につきまして、少し早いめで、お願いします。

(3) 報告・協議3 令和4年度小中一貫教育の到達目標

資料9頁に沿って事務局より説明

報告・協議3について質問・意見等と応答

(会長)

ありがとうございます。4点に分かれますので、それぞれご確認願いたいのですが、まず、今年度の目標あるいは現在の取組がございましたが、去年の分との対照になっていて、8ページ、9ページが並べてもらおうと、こういうことなのかとご覧いただけるかと思えます。これはいかがでしょうか。ご質問ございますか。

では、書かれている内容にもつながりますので、2つ目、アンケートのことなのですが、別紙のホッチキス綴じのもので、6年児童用から始まって(案)と書かれているのですが、ご覧になってお気づきのことがありましたら、ご発言ください。

保護者のお立場から、ご質問・ご意見ございますか。

(委員)

そうですね。保護者に出すアンケートですが、「小中一貫教育」のこともわかるプリントと一緒に配布いただくと、こういった活動をしていますよとわかっていいと思うのですが、こういうものと一緒にアンケートが送られるという形なんでしょうか。

(会長)

なるほど。調査のイメージとしてはどうですか。

(事務局)

ちょっと、そこまでは考えておりません。今、お聞きいたしまして、そういう形の方が保護者の方がイメージしやすいし、お答えしてもらいやすいかなと思いました。

(委員)

そうですね。裏面がちょうど「小中一貫教育に関して、どのように思われますか。」と書いてあったのですが、まったく何もない状態だったら、ちょっとわからないかなと思いましたので、お願いいたします。

(会長)

はい。調査のタイミングと言いますか、その時の話題ですね。

(会長)

事務局に確認ですけど、最終ページの「学校用」というのは、これは誰に答えてもらうのですか。

(事務局)

学校の推進部の方というか、進めているというところで考えています。

(会長)

校長先生ではなく。

(事務局)

校長先生だけのご意見ではなくて、小中一貫を推進している学校の答えとしていただきたいなと考えております。

(会長)

これまで、学校単位に取ってきましたか。それは誰に答えてもらってきたのですか。

(事務局)

それも学校の中でまとめて回答・報告してもらっていました。

学校で、このようなアンケートがあるということで、職員に聞きながら、最終、まとめて学校でご回答いただきました。

(会長)

では、最終的には校長先生から出てくるということですね。

(事務局)

そうです。このアンケートを、特に例えば校長の立場からどう見ているかとか、教頭の立場からどう見ている、教務主任の立場でどう見ている、一般職員の声としてはどうだという、分けた取り方はしていません。

回答の多くは、小中一貫教育のコーディネーター役を担っている者が中心に、素案的にアンケートに答えまして、それを職員会議で、検討し、学校としてはこういう形で良いか確認をして、最終、校長名(校長の了解のもと)で返答しているというのが一般的かなと思います。一般的と言っているのか、私の過去の管理職の経験で言うと、そういうことが多かったと思います。この試案には、今のご意見のように、校長はどう見ているのだとか、教頭はどう見ているのだとか、役職別…、役職というのは変だけれど立場による見方を、取ることはあっても良いのかなと思います。

アンケートの取り方によりどれくらいの違いかというのは、やはり校長の学校運営の中で、様々な指示や方向性が出ますので、おそらく取り方の方法に関係なく、大きな違いにはならないかとは思いますが。ただ、ポジションによる違いは、多少あるのかもしれませんが。

(会長)

ありがとうございます。では、最終的には校長が了解という形で出てくるのですね。

今まで、児童・生徒用と保護者用にばかり関心が行っていたのですが、学校用ですが不勉強で今、拝見して、最終ページの6番目の項目なのですが、児童・生徒さんとか保護者は、学校がそんなふうにやっておられるとか、先生はそんなふうに活動しておられるという受け止め方なので、意識と言うかとらえ方でいいと思うのですが、学校は学習指導とか生徒指導をやっている側なので、例えば1番で言うと、「9年間を見通した系統的・継続的な学習指導」を「意識している」と言うのは、ちょっとおかしいのでは。

それで何を捕まえるのかということもあるし、こう聞かれたら、世の中の多くの人たちは頑張っているかと言われたら「はい」とみんなだいたい答えると思うので「意識していますか」とか「していません」とかは…、何でこんなの聞くのみたいになるように感じます。例えば、経年変化を見ると着実に増えてきたとか、活動のカリキュラムの設定がなされてきているとか、職員会議で議題にこういう形で上がっているとか具体的な活動として聞かれないと、答えにくいのでは。逆に「意識していない」状態とは何かと聞きたくなるのですが。

(委員)

私もそう思います。これは、意識していただいているものだと解釈したいのですが。意識していないというのは。

(会長)

どんなふうに聞いたらいいですかね。

(事務局)

そうですね。多分、このアンケートそのものが、すごく前から実施していて、小中一貫教育が、まだまだ定着していない頃からこのアンケートをやっていて、それで今11年目になって、コロナも少し収束してきたところで、初心に戻りもう一回このアンケートをとってみよう、となり、当時との比較のために前のままだったのではないかと思います。教員に聞くアンケートについては持ち帰らしてもらい、中身も精査していきます。

(会長)

ありがとうございました。協議会としても回っていても、コロナを挟んで、ちょっと忘れてしまったという感じで、お世話をかけますけど、よろしく願います。

(事務局)

ここで、少し戻らせてもらうのですが、9ページの「到達目標」の(3)の文言で「家庭や地域との連携」にとどまっているのですが、ここは連携「・」協働まで書かないと、新しくないのかなと気付きました。

「家庭や地域との連携・協働」と。連携でとどまっているはいけないよという段階ではないかと。特に5行目にもやはり「協働で取組」ということが書かれていますので、その方が良くないかなと思います。

(会長)

ありがとうございます。そうですね。令和3年度のほうはそのままで。

(事務局)

はい。

(会長)

わかりました。進化したという感じですね。ありがとうございます。

あと、「アクションプラン」それから「ジョイントプラン」というのもございますけどたくさんあるので、どこからと思いますが…。

(委員)

今、センター長のお話しに関連することなのですが実は、私が、校長として、小中一貫教育と、今年始まった学校運営協議会、地域学校協働活動とを同時進行することについて、かなり厳しいと考えています。具体的には、地域学校協働活動は今年がスタートなので、まずは、それぞれの学校で、地域の皆さんと自校の子どもたちの様子を共有しながら、学校では、地域の力を活用しながら、同時に学校を核とした地域力の向上の取組を一方でやっています。菟道小は菟道小で、まずは始めてみよう、菟道第二小学校は菟道第二小学校でさあ始めてみよう、宇治中は宇治中で始めてみよう、という形で、今年のCSは進もうとしているのですね。

これが小中一貫教育を中心に据えると、本校なら、宇治中学校ブロックということになり、宇治中学校ブロックでのことを考えながらやらないといけない、今年なら、自校のことを中心に考えていく必要があるのに。また、地域も宇治中ブロックの地域ではなく、自校の地域の方と一緒に進めていかねばならないので、ものすごく焦点がぼけてしまうように思います。

菟道小を中心にやっていくのか、宇治中ブロックとしてやっていくのか、と言われたとき、両方、さらにそれぞれ「到達目標」と言われたときに「しんどいよな」と感じます。

当然、そういうことも視野に入れて、CSを推進していくのではあるのですが…。

最近、そう考える理由は、このCSが出てくる以前に、宇治中学校では、もう30年に及ぶと言われていました「宇治中学校区豊かな心を育てる実践活動推進協議会」略して「中推協」という組織があります。それは、宇治中学校の育友会さんを中心に、そこに進学してくる菟道小学校、菟道第二小学校、神明小学校の管理職と育友会やPTAの役員さんが集まって、毎年活動をしていきます。多くの地域団体に地域の方も、それから教員も、あそこの学校のこと、自分の学校のことと、本来なら同時並行、広い視野で進めていくべきであるとはわかるのですが、CSはCSで、一貫教育は一貫教育で、地域の団体は団体でそれぞれ計画を立てて、それぞれと一緒に協働することは、ものすごく煩雑、そして「働き方改革」には大きく逆行してしまう、そういう状況も生まれているというのが、私の感じているところです。

近視眼的なのかもしれませんが、あれもこれも、たくさんの目標を、今年度内にあげられると、正直、現場はしんどいです。CSを進めながら校区で育てる、中学校ブロックで、もう少し大きな宇治市を視野に入れて、子どもたちを包み込むような形で育てていくとていうことが必要だとは思いますが。

(会長)

ありがとうございます。今の委員さんのご意見は、今年度の当初の、今、2ページにも関わると同時に、次第で言うと4ですね、「小中一貫教育の目指す方向性について」、という、12ページからのご説明と重なるということで良いですか。

では次第を進めさせていただいて、12ページからのご説明をコンパクトに伺って、先ほど、大事な提起というかご意見を頂戴したと思うので、その上で、どう、本年度、やっていくのか、旗を色々掲げて、実際のところマンパワーの問題もあります。また小学校単位なのかブロック単位なのか、論理的にどう考えたらいいのかというところでしょうか。論理的な、理屈の補強が必要になるかもしれないので、今のご発言は預らせていただいて、その後、次第の4番の「目指す方向性について」という中で、可能であれば補足いただき、また今の考えているところなど、ご説明をいただき、今後、どうしていくのかすり合わせ、整合性を図っていきたいと思います。では、4に参りましょう。お願いします。

(4) 報告・協議4 小中一貫教育の目指す方向性について(案)

資料(12頁～)により事務局より説明

報告・協議4について質問・意見等と応答

(会長)

ありがとうございます。これが、次第の3とセットで始まっている年度…、今年度なのだけど、今年度終わりぐらいの見通しでというご提案なのですけども、いかがでしょうか。中学校ブロックというか、中学校のお立場から、委員、どうですかね。CSと地域連携というあたりは、木幡はどんな感じですかね。

(委員)

先ほど委員がおっしゃったように、CSは各小中学校に組織されていますので、具体的な個々の取組をつなげたり、それを一つにしたり、こういう具合にもっていったりは、俯瞰的に見ても、なかなか難しいのは事実だと思います。

(会長)

なるほど。

(委員)

ただ、今年からというより、今年組織して、今年歩きながら勉強して、最終、年度末には、それなりの実践を行っているというような形でスタートしていると認識しています。その中で、各学校で地域の人材とか、今つながっている、木幡中学校は青少協に大変お世話になっているのですけど、つながりみたいなものを、外側から支援していただいていたというのではなく、一緒にやってみようという視点を伝え、子どももそうですけど、教員も、児童・生徒より先に、教員かなと思います。そういう形に持っていくという、ちょっと長期的な視点をもってスタートしたと思っています。

まだ、十分な議論はされておらず、課題は出てくると思いますが、一つ一つ解決しながら、地域とともに一緒にやってみようという方向で、やっていかなければならないのではないかと、私は思っています。ただ、今、おっしゃったように、私、中学校ですので、中学校のブロックとしてものを考えています。小学校からすると、二つのことを同時にというのは確かに負担だろうなということは、今、聞かせていただいて思いました。

(会長)

なるほど。ありがとうございます。

この、事務局からご提案いただいている4項目のうち、13ページにある3と4のところが、一つ焦点かなと思います。これはあくまでも本年度の目標というのが前提になっているということであるなら、今、岸委員さんがおっしゃったように、中長期的に考えるというのと、まず、今年度ということの峻別は必要かなと思うのですが。

事務局に確認をさせていただくと、12、13の「目指す方向性について」(案)というのは、時間

的にはどんなふうに理解すればよろしいですか。

(事務局)

ここでご協議していただいて、来年度以降、このようなことで小中一貫教育を進めていきたいなどというふうに考えております。

(会長)

来年度以降…。今年度の7月以降は。

(事務局)

それにつきましては、4年度の「到達目標」に沿って進めては行っていただいているのですが、今年度、ご協議をいただいて、案をもとにまとめたもので、来年度以降やって行きたいと考えております。

(会長)

ごめんなさいね。今年度が終わっていない時点で、議案として、来年度以降の話は、しても仕方ないと思うのですが、次第の4、この冊子の12ページのもの、令和5年度以降の話というのは、まだ4年度が終わっていないので。今年度の終わりに来年度に向けてとか、2023年度の1回目の話でとかなら。令和4年の7月の時点で、5年度以降の方向性についてご意見くださいというのは、議論にならないのでは。仕方がない、やってもしょうがないというか、何も言えないというか…。そういう認識ということでしょうか。

(委員)

さっき、私が言ったのが何だか少しややこしかったのかもしれないのですが。この12ページ、13ページは、いつまでに何々というのではなくて、小中一貫教育を通して、こういう子どもを育てたいとか、こういう関係性をつくりたいとか、そういうことが12・13ページにあるのではないかと僕は思っています。

ただ、これについては、特に今年度1年で到達を目指すというよりは、将来も見据えながらということかなと思っていたのですが、9ページは先ほどもちょっと言葉に出しましたが、「令和4年度」の「到達」目標ですので、「到達」を目指さないといけないのですが。

3の、(1)、(2)あたりは、ほぼほぼ、これまでの10年間の積み上げの中で、結構…ルールに乗っていて、教員も、この10年間の小中一貫教育として、私もずっと、主幹教諭に始まり、どちらかというと推進運営する側で、小中一貫教育に関わってきた立場で言うと、今は、各校長は、中学校ブロックでの相談、中学校ブロックの方向性というのを、ものすごく大事にしています。ものすごく。

宇治市において、例えば本校なら、宇治中ブロックで、菟道小が何かをやると言ったときに、必ず菟二小、宇治中には相談をかけます。菟二小、宇治中からも、こんな問題起こってないか、うちはある、ないとか、それではこうしよう、ああしよう、結構袂を割って決めながら、ある程度歩調を合わせて、菟道小学校の保護者も、宇治中の保護者も、菟二小の保護者もみんなが、うちのブロックはみんながちゃんと一緒に小中一貫教育やってくれていると、安心感を与えながらやっています。東宇治ブロックのほうも、かなり大きなブロックですけど、ものすごく丁寧にやっておられるのを校長会でも聞きますので、このあたりは10年前にはなかった、非常に、小中一貫、一緒に9年間で子どもたちを育てていく、将来の進路も含めて、義務教育を終えさせていく、良い連携が進んでいると思うのですが。ただ、今、「地域と」ということについては、手を直接に着けていくという事柄については、「到達目標」に縛られると、今は、学校現場では、正直厳しいと感じているところです。

それで、今の私の肌感覚ですけども、この10年間にコーディネーターが大きく変わりました。

チーフコーディネーターという名前から、学びを中心にしたラーニングコーディネーターという名前に変わっています。それで言ったら、コーディネーターの名称自体が変わったということを見ると、今、第1期の、小中が一緒に、子どもたちの中1ギャップを解消しながら、安心して中学校へ進学できる、というところから、今、9年間で学力をつけて、将来の展望を持てるような児童生徒にしていくというところの、今、第2期に移っている。何と云うか、第2ステージのそろそろアクションプランの、当初の計画、コロナがあったので、収束していくというね、次、今、アクションプランにしたことは、けっこうそれが…。取組としなくても、普通の事柄としてね、できるようになってきている、意識するようになってきている。

(会長)

わかりました。いいですか。ありがとうございます。

(事務局)

9ページの「令和4年度の小中一貫教育の到達目標」の(3)につきまして、もう少しご説明を加えさせていただきたいのですけれども、令和4年度に、地域との何か新しい取組を始めてつながっていただきたいということではなくて、昨年度も「地域とのつながり」ということで視察をしていただきました。例えば広野中学の「HOT-MEETING」は、もとは福島の「ひまわりプロジェクト」で、それに関わり、そのテーマで集まっていることを、実は、視察しに行きました。「ひまわりプロジェクト」のテーマで視察に行ったのです。

その「ひまわりプロジェクト」は、地域の方と(といっても校区の方ではなかったのですが)、ずっともう7~8年続いて、福島へヒマワリの種を送るということで、児童会・生徒会がともに活動しています。それで、「ひまわりプロジェクト」がずっと続いていて、児童会・生徒会が、大切にしているという話が去年あり、そこに関わってくださっている、校区外ではあるけれども、その地域の方もずっと携わってくださっているので、途切れずにこの活動が続いているわけです。実際、当日は、「ひまわりプロジェクト」の活動がコロナで無くて、オンラインでミーティングをしていることになりましたが、ブロックの中で地域の方が関わり、ずっと続けている取組が何かあるのではないかと。

榎島中学校の例も、北榎島小学校は小学校さんの取組をしておられ、榎島中学校は榎島中学校の取組をしておられるのですが、地域の民生委員さんが北榎島小学校にも行っていらっしゃる、榎島中学校にも行っていらっしゃる。小学校ですっとこの子たちと色々やっていた、中学校へ行っても同じ地域の方がいらっしゃる、その方が中学生に色々声をかけてくださる。まあ言ってみたら、「あんた、大きくなったな、しっかりしたな、立派になったな」と言ってもらえることで、中学生がすごく自尊心・自己肯定感が上がる。地域の方が、その地域の子どもたちを知ってくださっている、そういうことが現在の各校の活動の中で何かあるのではないかとということを探っていこうと考えました。

決して、新たに、小中で、合同で、地域の人が入って、活動してくださいねと言ったものではございません。

(会長)

はい、どうぞ。

(事務局)

この(案)につきましてですけれども、先ほど、来年度以降という話をしてしまったのですけれども、今年度到達目標を出させていただいていますし、本年度が11年目ということで、本年度の活動も含めて、今後の方向性ということでの(案)ということで、来年度からということではなくて、到達目標としてはここに書かせていただいているので、今年度も含めて、方向性ということでご理解いただきたいと思います。

(会長)

ありがとうございます。2つ論点があると思うのですが、まず、1点目からですね。9ページに書かれている特に(3)の内容のところです。ここについて、家庭や地域との連携を学校が深めていってというのが「到達目標」ですが、ここでは地域というのが、2つ意味があって、1つは小学校の通学区としての「地域」ということと、中学校ブロックを含めた、もう少し大きな「地域」という意味があって、そこは、読み方によっては両方、どちらでも、とりあえずCSをやってくださいというのが本年度であり、かつ、その中学校ブロックの中での、小小を含めて小中連携をとということになると学校のマンパワーからかなり厳しいという声だったと思います。

この「令和4年度の小中一貫教育の到達目標」というのは、4月当初、これで始まっていますが、PDCA的に言うなら、やっぴいこうとしているのだけれども、やっぴい中で、けっこう大変で、長期的にはともかくとしても、今年度の到達目標として記されているが、そこは実際に即さない場合があるのではないですか、という意見が出てきたと受けとめました。

今、新しく、ではこういう文面で、とご提案いただくことはできないと思いますが、(3)については、地域という言葉の使い分けとか、要するに、ここで指すのはこういう意味ですよ、小学校・中学校こういう意味で書いているのですよと書き足しが必要になるのかもしれないので、(3)につい

ては、再提案というか、これは僕の提案ですが、再提案で、また、すぐに集るといふわけにはいかない、お忙しい方々ばかりなので、文面にてこういう(案)で考えていきたいのですが、どうですか。

事務局から各委員に送っていただいて、意見を頂戴して、これで良いですよということであれば、いわゆるメール審議というか、郵便でも電子メールでも良いのですが、メール審議という形で、各校でご了解いただく、というふうにしてはどうかということ。

それから2つ目の、この12ページ・13ページのことなのですが、今年度を含めた中・長期的な目指す方向性ということであるなら、これは(案)ではなくて、事務局としての考えをここで示し、少し先のことも含み、考えながら、(案)ではなくて「提案」という意味で、ここで議論して、これで良いか、悪いかを決める協議ではなく、こんなこと考えておられるのか、また、練り直しもあるかもしれない、という協議会としてはお聞きしておく、という位置づけにしてはどうかと思いますが、この2点いかがですか。

(事務局)

はい。それでよろしくお願ひします。

(会長)

ありがとうございます。では、1点目に関しては、後日、事務局の方から、特に(3)について再提案というか、現在進行中なので、PDCAでいうと、チェックして、点検して、やはり当初案では達成が難しいという意見も出てきているので、適宜、点検評価して修正することも、まったくやぶさかではなく、より現実味がある、可能な目標でやっていきたいと思いますという、再提案ではなくて、修正を図るということで、それを文言に落とし込んでいただくという形にしたいと思いますが、よろしゅうございますか。

ありがとうございます。では、駆け足で短い時間で申し訳ありませんでしたが、12ページ・13ページ、ご説明いただいた4項目について、今年度も視野に入れながら、来年、もう少し先を見据えての小中一貫を、そういう方向で考えているというご提案をおもちだということで、お聞きくださいと思います。若干錯綜しましたが、よろしゅうございますか。では、3番と4番についてはこれで終わりたいと思います。

では、5番目の、修正案も頂戴する必要もあるのですが、今、お話、皆さん方にご協議いただいたあたりを念頭に置いて、では本協議会は今年どうするのかということについてご提案をくださいますか。

(5) 報告・協議5 令和4年度小中一貫教育推進協議会の活動について(案)

資料14頁に沿って事務局より説明

報告・協議5について質問・意見等と応答

(会長)

ありがとうございます。では、昨年度までの経験のある方がおられますので、特に学校訪問・視察を色々用意してもらっていますが、こんなふうにやってもらったらいいかとか、この点はどうかとか、参考にしてもらえればというご意見があるかもしれませんので、このあたりいかがでしょうか。委員いかがですか。

(委員)

希望というか、あまり具体的なことは無いのですが、いつも、視察に行かせていただくと、ものすごく丁寧にお迎えしてもらっているので、そんなに気を遣ってもらわなくてもいいです。硬いところじゃなくて柔らかいところを見たい方なので、活動されている中へ入らせてもらったり、ちょっとそばへ行かせてもらったりさせていただきたいと思います。

去年の、着物とか、着付けとか、生け花とか、地域の方と接している子どもたちの顔を見たようにね。どういうふうなやり方でやっているのか、詳しくまではわからなくても、児童・生徒のそんな姿が見られる方が良くと思います。訪問してもあまり気を遣わないでほしいな。

(会長)

ありがとうございました。委員、いかがですか。

(委員)

一応、5つのブロックが出ていますけれども、2、3、4、5と一応予定はしています。興味があります。以上です。すいません。

(会長)

はい、ありがとうございます。コロナ前は、気楽な学校訪問みたいなことも、委員会のご尽力で設けてもらったことがありました。あまり形式ばらないで、ふわっといつでも気軽に、保護者みたいな感じで来てもらったら、ということもご無理を申して設定してもらった年度もありました。しかし、コロナということもあり、学校もなかなか開けにくいということもあり、それでもこれだけ5つ、ご案内を今のところいただけるということなので、ぜひ、積極的にご参加いただければありがたいと思います。

なるべくたくさん、できれば複数で、行きましょと掛け声した年度もありました。その方が、同じ市内でも色々だなということが勉強になりますし、また、子どもさんの様子、地域の方の様子を見るのも、楽しいというかな、興味深いですし、いいかなと思います。

ただ、1点、謝金は1回分ということなので、それ以上はボランティアという…、怒り出す人はいないと思いますが、そのつもりで行っていただければありがたいです。なので、先方様のご都合もあるとは思いますが、できるだけ複数行ってもらえればありがたいですし、また、学校で、委員同士が会いますので、そこで、ああだった、こうだったという、委員同士のおしゃべりもありますので、可能な範囲でご参加いただければ大変ありがたいです。

では、今年度の我々の活動・つもりとしてはこれで良いですかね。はい、ありがとうございます。はい、どうぞ。

(委員)

すいません。日程調整中というところは、はっきりわからないということで良いのですか。

(事務局)

はい。そちらの時間等はまだ決まっておりませんので、わかり次第、連絡させていただきます。

(会長)

確認だけど、「3」西小倉小と小倉小とかは、この4つとか3つのなかのどこかで実施ということですか、それとも、4回やるということなの。

(事務局)

そこも、時間等の設定がまだわかりませんので、まずは(案)という形で出させていただいて、また、日程が決まり次第、お話をさせていただきたいと思うのですが。今、「2」と「5」がこの日程を聞いておまして、必ずここで、どの取組もされるのですが、時間帯等がわかっておりませんので、できるだけ出ていただきやすい時間帯に絞ってお知らせしたいということですが。

(会長)

西小倉小は4回くらい、やるつもりをしておられるということですね。

(事務局)

協議会としてはそのうち1回分をと思っております。皆さん、出ていただきやすい日を。

(会長)

でもそれこそ、内田さん言われたみたいに、ちょっと協議会の日は無理なのだけど、違う日だったら行けるけど、行ってもいいかなということもありでいいですか。できれば、みんな揃った方が良くと思いますけど。そんな含みをもたせてというところで、あ

りがとうございます。ではいいですかね。

では、多くの議論をいただき、本年度の活動と到達目標とか、中長期的な委員会の活動の在り方とか、方向性についてとか、について理解が深まったように思います。また事務局から、特に今年度の到達目標に関わって、(3)あたりを中心に、実際にやりながら修正していくということになり、このあたりについては郵便での確認ということになるかと思いますが、改めてご提案いただきます。こういうところで7月の認識としては良いのではないかとこのところにたどり着いたと思います。直接、お会いすることは近々は無理ですが、その点も、郵便を通じた審議ということでご了解いただければと思います。よろしく願いいたします。では、「6 その他」を事務局お願いします。

(6) 報告・協議6 (仮称)西小倉地域小中一貫校について

資料14頁に沿って事務局より説明

報告・協議6について質問・意見等と応答

(会長)

はい、ありがとうございます。予定通り進むと、何年開校ということになりますか。

(事務局)

令和8年の4月ということで、現在、1日も早く開校をということで進めております。

(会長)

2026年になりますね。約3年半、4年後くらいですね。ありがとうございます。以上、お知りおきください。

では、用意いただいた議題・報告は以上ですが、各委員さんの方から何かございますか。しばらく直近にはお会いできないので。よろしゅうございますか。

では、長時間たいへんありがとうございました。色々出していただいて理解も深まりましたし、また、議論も深まったと思います。ありがとうございました。では、事務局、お願いします。

(事務局)

事務連絡事項の説明

それでは、事務連絡をさせていただきます。学校関係者の方を除く、委員の皆さんの報奨費につきましては、今回、新たに行政委員として登録いたします方につきましては、口座の申込用紙の提出をお願いしております。また、昨年度から継続いただいている委員の皆様につきましては、口座を変更される場合のみ、事務局までお知らせいただけたらと思います。

次回の推進協議会は視察のかたちとなりますことから、このように全員の集まる協議会の開催は、3学期2月末ごろを予定しております。後日、日程調整の上、ご連絡させていただきますので、その際はよろしく願いいたします。

本日の議論につきましては、冒頭にお話した通り、要約という形【会議録】で作成します。また、内容を整理した上で各委員のほうに確認していただきますのでよろしく願いいたします。

3 閉会

上道副部長より閉会の挨拶